

施策No.	政策名	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり	主管課	高齢福祉課	主管課長名	田谷 賢一
1-6	施策名	高齢者福祉の推進	関係課	健康推進課、社会福祉課、介護保険課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
	高齢者(65歳以上の市民)		①65歳以上の人口	人	見込値	13,557	13,607	13,660	13,711	13,605
実績値					13,730					
				見込値						
				実績値						
				見込値						
				実績値						
施策の意図	成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度		
高齢者が安心して健康に暮らせている。	①生きがいを感じている高齢者の割合	%	目標値	70.0	71.0	72.0	73.0	75.0		
			実績値	65.6						
	②生きいきサロン延べ参加者数(R4から新規)	人	目標値	2,500	2,000	2,200	2,400	2,550		
			実績値	1,632						
	③相談に対して解決した割合	%	目標値	85.0	85.0	86.0	86.0	87.0		
			実績値	92.3						
	④認知症サポーター養成者数	人	目標値	350	360	360	360	360		
			実績値	547						
成果指標設定の考え方	社会貢献ができる環境を整え、健康寿命の延伸および生きがいにつなげる。日常生活の支援サービスを充実させるなど地域包括ケアシステム体制を推進し、増加する認知症患者への社会的理解を普及させるなど地域の支え合い作りを行う。									
成果指標の把握方法と算定式等	①生きがいを感じている高齢者の割合は、市民アンケートより求める。②生きいきサロン延べ参加者数は、年度末の実績より求める。③相談に対して解決した割合④認知症サポーター養成者数は、年度末の実績より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)		
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した
背景・要因	<p>①生きがいを感じている高齢者の割合は、前年度70.1%に対し、65.6%で4.5ポイント下回った。新型コロナウイルスによる行動制限があり、大人数での趣味や地域活動等に費やす時間が減った反面、家族や少人数で過ごす時間が増えた等、これまでと生きがいの感じ方が変化していると推測される。</p> <p>②生きいきサロン延べ参加者数は、前年度1,419人に対し、1,632人で213名増加した。これは、新型コロナウイルス感染症の影響が緩和してきたことにより、サロンの再開、外出意欲が向上してきたことが要因と考えられる。</p> <p>③地域包括支援センターで相談を受け、問題が解決した割合は前年度72.3%に対し、92.3%で20.0ポイント増加した。これは、毎月1回地域包括支援センターと在宅介護支援センターで連絡会を開催し、情報交換を密に行い、相談事例に対応した結果、多くの事例で問題解決に至ったことが要因の1つと考えられる。</p> <p>④認知症サポーター養成者数 前年度306人に対し547人と大きく上回った。新規に開催した小中学校があり、養成者数の増加に至った。</p> <p>成果指標の4つのうち、3つの指標が前年度を上回った理由として、新型コロナウイルス感染症の影響が緩和してきたことにより、徐々に高齢者が外出しやすくなったことなどが大きな要因と考えられる。これらのことから「成果がどちらかといえば向上した」を選択した。</p>	
2) 成果目標の達成状況		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
背景・要因	<p>①高齢者が生きがいを感じている割合は、目標値70.0%に対し実績値は65.6%で4.4ポイント下回った。</p> <p>②生きいきサロン延べ参加者数については、目標値2,500人に対し、実績値1,632人と868人下回っている。</p> <p>③相談に対して解決した割合は、目標値85.0%に対し、実績値92.3%と7.3ポイント上回った。</p> <p>④認知サポーター養成者数は、目標値350人に対し、実績値547人と大きく上回った。</p> <p>以上のことから、実績比率は「目標値どおりの成果であった」を選択した。</p>	

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
<p>貢献度評価の視点から令和4年度実績のあった事業は「総合相談事業」、「成年後見制度利用促進事業」、「認知症施策推進事業」であった。</p> <p>「総合相談事業」では、延159件の相談を受け、市内3箇所在宅介護支援センターや医療・介護の関係機関等と連携し、内143件を解決に結びつけることができた。</p> <p>「成年後見制度利用促進事業」では、利用促進協議会を年2回開催し、法律・福祉・医療関係者に裁判所職員を交え、市の取組について意見交換を行った。また、初めての取組として、全7日間の市民後見人養成講座を開催し、14名が修了した。その他、医療・福祉分野の従事者向けの専門職研修会と市民講演会を各1回開催し、制度の普及啓発を図った。</p> <p>「認知症施策推進事業」では、サポート医や関係機関との連携を図り、認知症初期の対象者3名を、医療や介護サービスへつなぐことができた。また、認知症の方やその家族が集う認知症カフェを11回開催し、当事者や家族の相談支援に当たった。</p>	<p>「総合相談事業」では、各種相談に対し、早期に解決できるよう、関係機関と密に連携を図り、対応していく。</p> <p>「成年後見制度利用促進事業」では、制度の担い手となる人材の確保が課題である為、市民後見人養成講座修了者のフォローアップに取り組んでいく。</p> <p>「認知症施策推進事業」では、認知症初期対象者の支援や認知症カフェの運営を継続していくことに加えて、認知症の状態に応じて受けられるサービスを整理した認知症ケアパスを作成しており、有効に活用していただけるよう周知活動を行っていく。</p>